

1. 次のⅠ、Ⅱの文章を読んで、後の問いに答えなさい。なお、解答はすべて、別に配布された解答用紙に記入しなさい。

## Ⅰ

日本の教育の様子を新聞やテレビだけで理解していたなら、ずっとゆとり路線で進んできたものが、2002年を境に一気に詰め込み路線へと切り替わった——そんなストーリーを描くことができるだろう。その理解は間違っていないが、それが日本の教育の一番大きな変化かといったらそうではない。底流で大きく変わってきた部分がある。

過去10年間での最大の変化は、日本の教育がボトムアップ型からブルトップ型に切り替わってきたことにある。国民を広く底上げする方針から、一部のエリートを① コウグウする方針へと、舵を切ったのだ。

高度成長期の日本は、ボトムアップ型教育の成功によって分厚い中流層を作り出し、世界的な成功例といわれ、海外からの視察も多かった。だが、それでは創造的な人材は生み出せないとの批判が国内外で高まり、84年、中曽根康弘政権下で臨時教育審議会が設立され、優秀なエリートを② ハイシュツするブルトップ型へのシフトを始めた。

英米の教育が典型的なブルトップ型だ。英米では、大学はもちろん中高でも、すばらしい教育を行っている学校は、世界から留学生を受け入れている。英語が世界言語であることに支えられ、教育は重要な輸出品となっているのだ。

その反面、ボトムはひどいものだ。最近では、アメリカの公教育から、体育、音楽、美術の授業が消えつつある。その理由は、用具を購入し、教員を雇用する予算がないからだ。さらにひどい場合には、週5日制の学校が、実際には週4日制になっているケースもある。スクールバスの燃料を購入できないからだ。教育の予算を自治体が担うため、貧乏な自治体ではひどいことになる。〔中略〕

これが日本の教育がめざしている方向だ。日本の教育は、ボトムアップ型の成功例として世界に名を馳せた過去を捨て、ブルトップ型へと着々とシフトしている。教育に投入できるリソースが全体に幅広く分散している状態から、一部に厚く集められる状態に移行してきているのだ。

## Ⅱ

産業の主要な部分が変わり、労働現場は戦略を考える一部上級職とその他大勢という図式になった。グローバリズムの進展により、その他大勢の人たちは今、賃金の切り下げにさらされている。

調理に興味がある高校生（大学生でもいい）がいたとしよう。現在、就ける職で有力なのはファミレスの調理係ではないだろうか。そこでは、パック化された料理を決められた手順で仕上げるだけ。彼が思っている調理とは違う。調理の世界も、メニューを考える一部の上級調理師と、その手順に沿って冷凍品を解凍して仕上げるその他大勢の調理師に分かれている。その他大勢の調理師には、調理している実感は持ちにくい。

そんな仕事を続けて金を貯めたら、自分の店を開けるようになるだろうか。1990年代前半から、あらゆる自営業は冬の時代に入ったままである。高品質のものを高価格で出す高級店を除いて、その他大多数はチェーン店に押されて苦しい。つまり、調理の仕事に就きたいなら、ファミレスの調理係のような仕事を40歳になっても50歳になっても続けるしかない。〔中略〕

写真に興味がある高校生（大学生でもいい）がいたとして、彼が写真に関連する仕事に就けるだろうか。これは相当に難しいことだろう。コニカミノルタやニコンのような会社が③ サイヨウするのは、何でもできる優秀なホワイトカラーである。有名大学を出た学生と競って勝たねばならない。

それでは、街中のラボはどうか。これは写真に関する仕事といっても、客から受け取ったフィルム（あるいはデータ）を集めてセンターに送り、センターから戻ってきた写真を客に渡す仕事だ。写真に関連する仕事といっても、接客業なのである。やや大型の店だとしても、現像と焼付けを行う機械を操作し続け、その枚数を数え続ける仕事になる。これまた40歳になっても50歳になっても同じ仕事だ。

といっても、じつは写真に関しては、これも90年代までの話なのである。デジカメが登場してからは街中のラボは減る一方で、もうこういった仕事すらほとんどない。

この例に限らず、非常に多くの職種で近年、一部上級職とその他大勢職に分かれてきている。戦略を決めるスタッフがいて、一部上級職がメニューを考え、その他大勢職はその方針に沿ってメニューを作る。つまり、労働のマクドナルド化である。〔中略〕

高度成長期以降、非常に多くの割合を占めていたサラリーマンも同じようなものだ。コンピュータと通信技術の発達によって、頭数もいらなくなった。

80年代～90年代のアメリカで、ホワイトカラーの④ サクゲンがいかに激しく、悲惨なハードワークを強いられてきたことか。携帯やメールに追われて電車内でも家でも働き、1日16時間の労働に耐えないと仕事を失う。日本もまた、そんな社会になってきている。雇用と労働の厳しさは世代によって大きく違う。若くなればなるほど厳しい。20代では、不安定な非正規雇用の、⑤ カロウシ寸前の正社員かという二者択一を迫られる職場も少なくない。

加えて、政府は「労働者派遣法」を1985年に制定、以後06年まで、人材派遣をしやすくする改正を何度も行ってきた。その結果、当初の派遣社員はテレビドラマ『ハケンの品格』に登場したようなプロ意識を持つ人たちだったが、今では単なる下請け労働者となってしまった。すでに非正規雇用者は雇用者全体の34%まで及ぶ。これは若者だけの問題ではなく、35～54歳でも29%が非正規雇用者なのだ（08年1～3月、統計局）。

〔中略〕

教育の現場でも、いずれ上級教員と下請け教員に分かれていくことだろう。上級教員がカリキュラムやテストを作成し、下請け教員はパック化された授業やテストを解凍して盛り付けるだけになる。下請け教員は派遣労働者やフリーターと同じ立場に置かれる。

いや、これは将来の話ではなく、実はすでに現実化している。学校現場では非常勤教員が増えており、彼らの給与コストは常勤の五分の一だから、コストを削減しつつ人手を増やすにはもっ

見本

てこいだ。その給与の安さは⑥シヨウゲキ的で、非常勤教員を行いながら、生活保護を受けている者すらいる。イギリスでは外国籍の教員が全体の15%に達しているというから、外国人労働者が入ってくる可能性もある。

この前、兵庫県の高校で社会科の非常勤教員をしている知人が、秋葉原無差別殺傷事件\*についてネット上で日記を書いていた。

どうして25歳の自分が、トラックで歩行者天国へ突っ込んで、ナイフで人を刺して回るような人間にならなかったのか。今から考えてもよくわからない。今や死刑⑦シッコウを待つだけの身となった「彼」に対して同情はこれっぽっちも抱かない。ただ、自分も紙一重だったとは思いうー。

そんな内容だった。

あれだけの事件を起こした加藤智大容疑者が特殊な人間であることは間違いないが、今の若者の置かれている労働環境の厳しさがよくわかる内容だった。この知人は現在、32歳だ。月収数万円の生活を続けながら、倍率100倍を越える教員サイヨウ試験に落ち続けてきたのである。

「A」がベストセラーになる現在、派遣かフリーターとして働きながら、現代のプロレタリア文学を書く者もまもなく現れるだろう。おそらくケータイ小説として。

〔中略〕

日本の教育は、これまで一億総秀才社会をめざしてきた。みんながそこそこ努力家で、⑧キョウチョウセイがあって、常識を持っている。天才もバカもいないけれども、みんなが秀才、それが目標だった。そのために利用されたのが、規律正しい学校と高校受験のシステムであり、うかうかしていると県立高校に入れないし、うっかりすると行ける高校はなくなっちゃうぞという⑨オドしが効く社会だった。

しかし、今は違う。かならずどこかの高校には入れるようになったし、まわりに不登校の子も増えているから、サボっても気がとがめない。秀才は相変わらず秀才だが、反面、だらけた子が増えた。

〔中略〕

もう一億総秀才はいらない。少数の超秀才がいて、その他大勢はズルしないで働いてくれればいい。産業構造がそのように移行しているから、教育の場も同じ構造になっているのだ。

だから、今では一部の者しかがんばって勉強せず、その他大勢はまったりしている。親も子どもとなくわかってるのだ。ほどほどの子がいくらがんばっても、小学生のうちからハードに勉強している子には敵わないと。やっても⑩ムダな努力にすぎないと。

その結果として、大学生の学力低下が騒がれている。だから、いくら大学で補習を行っても、根本的な解決にはならない。いくら努力しても魅力的な仕事には就けないことがわかっているから、多くの子はがんばろうとしないのだ。

福地誠「教育格差が日本を没落させる」(洋泉社、2008年)による(数字表記を一部改変)。

注 \*、秋葉原無差別殺傷事件…2008年6月8日に東京の秋葉原で起きた事件。捕らえられた容疑者が自動車工場で働く派遣社員だったため、劣悪で不安定な待遇によって追い詰められたことが事件の背景にあったのではないかと話題を呼んだ。

問1 文中の下線部①～⑩のカタカナを漢字で書きなさい。

問2 空欄Aに入る文学作品として適当なものを、以下のア～オの中から1つ選び、その記号を書きなさい。

ア 俘虜記 イ 斜陽 ウ 羅生門 エ 蟹工船 オ 楳山節考

問3 波線部「すでに非正規雇用者は雇用者全体の34%まで及ぶ」について、そのような状態になったのは、産業のあり方がどのように変化したからか。80字程度で説明しなさい。

問4 筆者は、労働市場の変化が、子供たちの学習態度をどのように変化させたと述べているか。80字程度で説明しなさい。

問5 本文で述べられた「フルトップ型教育」と「ボトムアップ型教育」のそれぞれの特徴と日本における現状を説明しなさい。そして、それを踏まえて、今後の日本の教育のあり方について自分の考えを述べなさい。以上は全体で250字～300字程度でまとめること。問題2(英文)の趣旨を参考にしてもよい。